

ル 4
1543
4





洛陽名取集卷之四目錄

清水 真千手 車次

鳥辺野山

歌中山

阿弥陀峯

蓮華王院

地主 任公

大谷

牛尾山

妙法院

音羽 再念坂

菊谷

滑谷

智積院

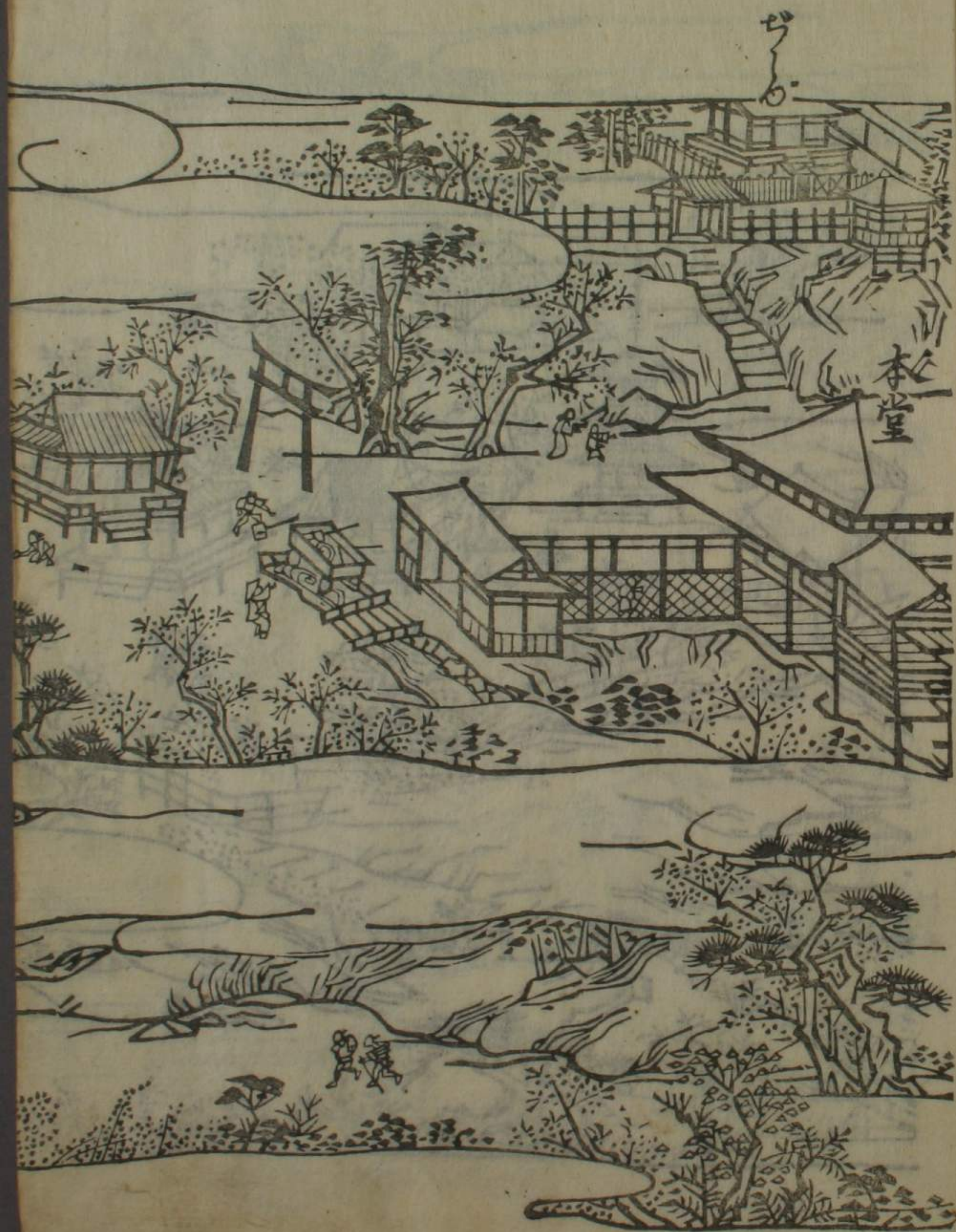
馬駐 子安

雲山

將軍塚

豊園

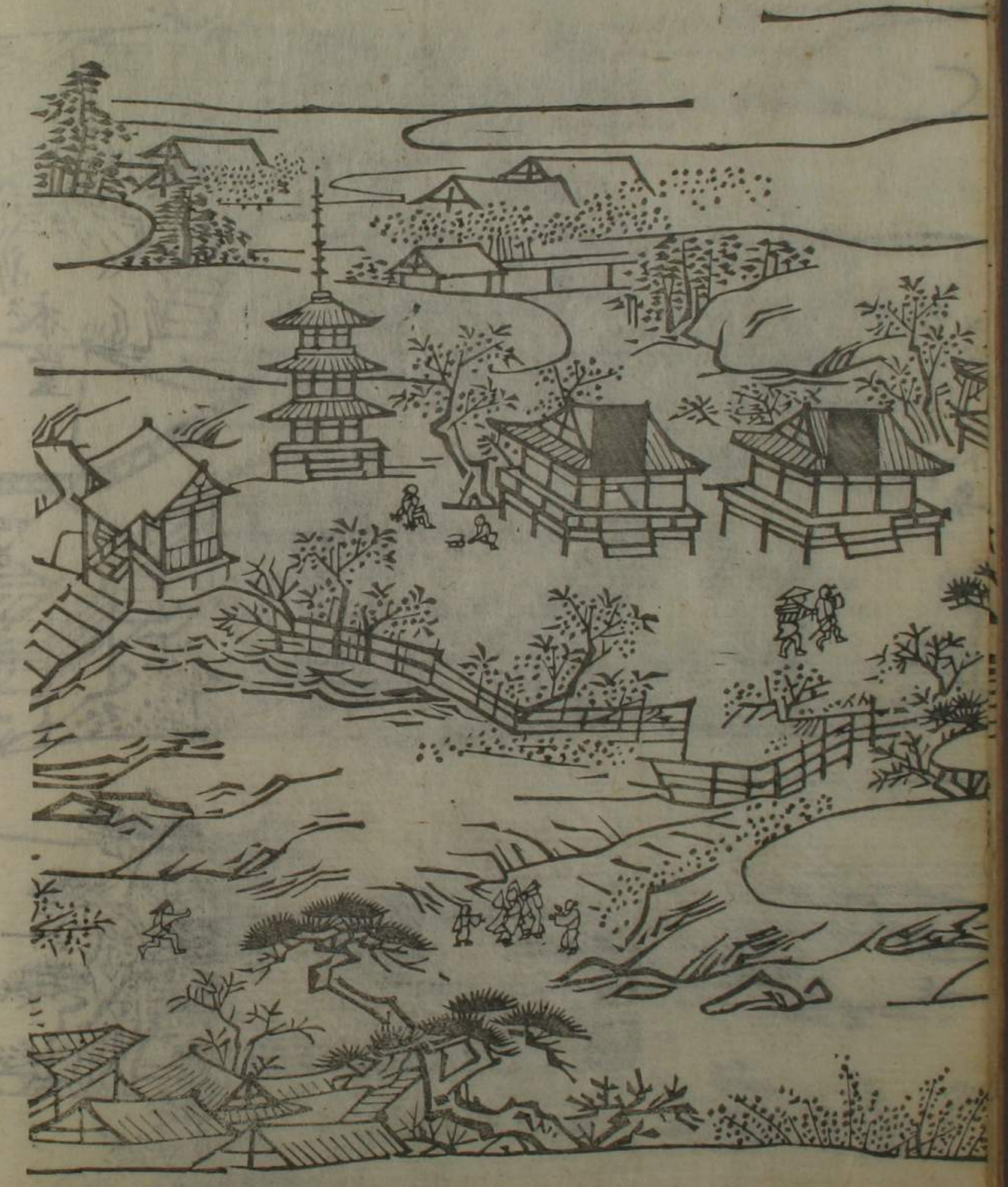
大仏 取塚

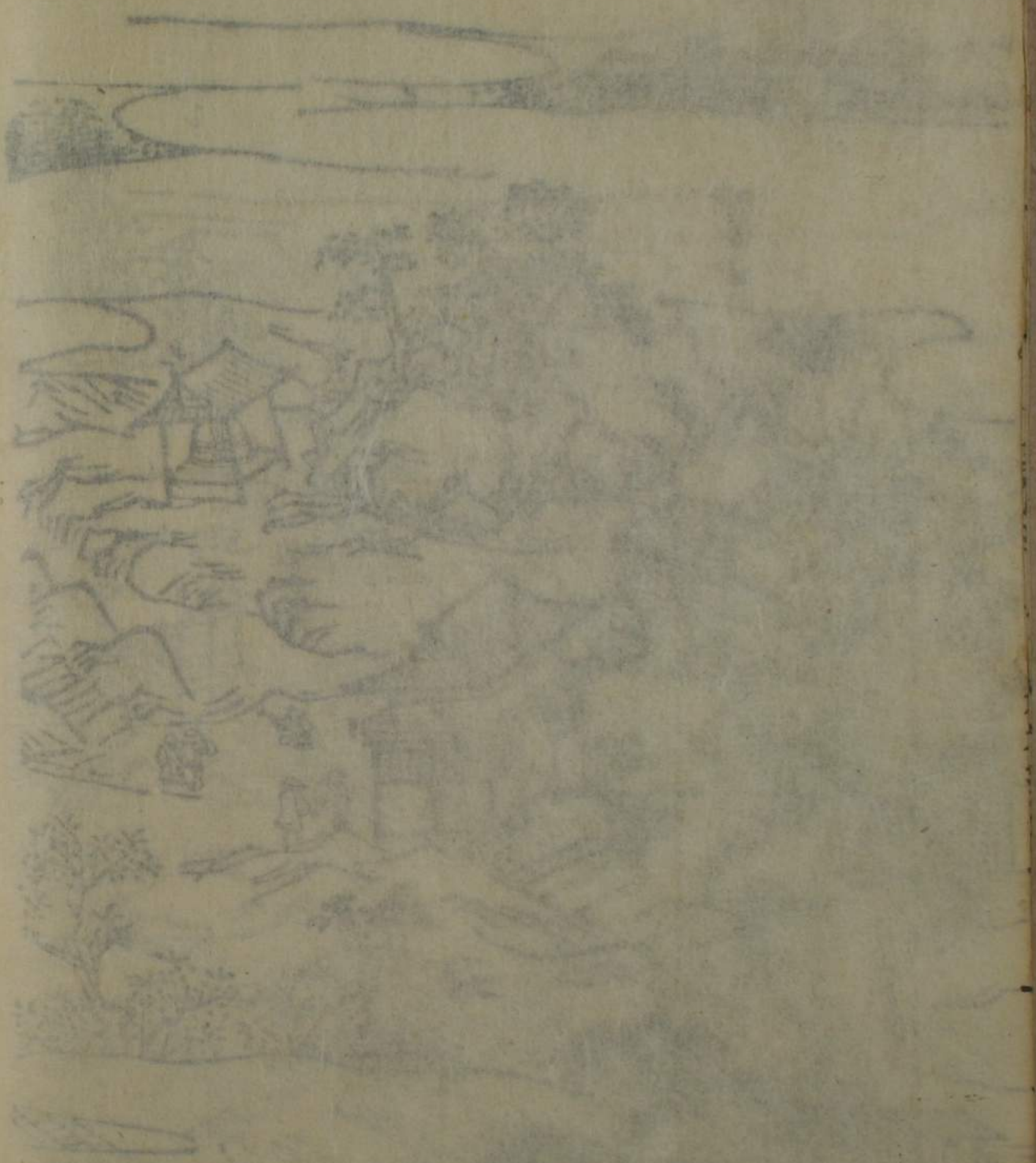




カ
ノ

ニ
ハ
シ





清水寺

○ け寺の祇園より十町ほど南東にあり
本堂は南向かり

○ 奥千手

奥千手に西向の三尊あり
延鎮行魯居共多う草葎草あり

延鎮行魯居共多う草葎草あり

清水寺は安永九年四月沙弥延鎮

或日報息二
説作真心實

心者大和国
小島寺僧也

延鎮行魯居共多う草葎草あり

延鎮行魯居共多う草葎草あり

延鎮行魯居共多う草葎草あり

よこすくさ度けしつたあしうくめしな力なす
よめくくさるるあし

古今集に至生忠峯のあふらちたさる龍のこ

かつしんまほをもつあまにくくさるるあふらちたさる龍のこ

しやまめらひ比叡山なる音相所とくく

のまふあつとやゆつとこ又伊勢のまのまふ河

せま入くおらとせまはせに人のんまふく

そとらつたふとよめはひ権中納言敦忠西坂

かの心ま乃滝のまよま書付くくやむらとけ

滝水れなるのま清なるこのまよまおはる

やくちらと

四宮れんはれなるまよま清くは清水

のまよまなまよま誠の道をまよま

まよまくしくまめたにまよままよま

新はまよままよまにまよまらひまよま

くまよままよままよまらひまよま

まよまらひまよま茶くまよまはまよま

まよまらひまよままよまらひまよま

まよまらひまよまらひまよまらひまよま

まよまらひまよまらひまよまらひまよま

月どにえんごふのりさるるもくむ
救ふひ扇あぶらとわ来志どらふうひの
河陽縣の潘岳はんがく寫えん成なりもめ金谷園きんこくえん
笑め々るハ。李太白りたいはく四罪飲しざいおんわ
歌ふも待けと。紅蓮こうれん志しふし。さあうく
うはくしやうのたもゆる後のちにつけ。
ひとびねん。あまのちやくみさうく
をこころしれて。さうふんをのやう
こころして。音羽れ離りの喜よろこんなりき
後のちもいこつと。しくまきこほらう
うらむに。はくふんまの袖そでまじく。

こころは女のおおんな。楯たてやぞいつて死しみ
のなごきさる乃のちにうけ。うらむにうら
し。あはれ。く。なまめい。うらむ
死しん。うらむ。うらむ。うらむ。うらむ。うらむ
よ。日ひのら乃のちにうけ。うらむにうらむ
影かげさし出では月つきとせ。げらさく。びらすす
やまうあ。ま。うらむ。うらむ。うらむ。うらむ
うらむ。うらむ。うらむ。うらむ。うらむ。うらむ
うらむ。うらむ。うらむ。うらむ。うらむ。うらむ
うらむ。うらむ。うらむ。うらむ。うらむ。うらむ

○ 東橋とうきょう 聖山せいざん乃より形う小川のうや
ひろくきさうくびんさる石橋なり

聖山せいざん

○ け寺ハ東向のし入るり奥乃方又あさ堂西
向より國阿上人建創しなり

け寺丸に双林寺なりぐれるぐく。遊人れ宴
あし一休をぬらばいげををたぐめしに
ふさわしきしむるも雪のしうけくし
く。雪の舞ややまもささたよりわなを山若狭
意極少將入道長嘯けやにしきしあひ
なつ。とく康しきしに歌道にふりるを

人の口碑ひとのくひのしきしおほのありしれ
いらく集くみ白集はくしゅうしきし十巻を

鳥邊野とりべの 山

○ けとらうく清水のゆや

性靈集せいりやうしゅう十を天長四年乙未日勤操大徳於中京
西の北に掩然かんぜん而化死。遂つひに東山鳥部とうざんとりべ南麓なんろく
長保之年皇太后東之峯院とうのねのいん誥ご子解げし終はつひぬ
と。十二月廿四日にを戸部との苑えんに終はつひぬ
世述中よせしゆちゆうのゆきしき

終はつひぬ

叙しよ文ぶん豪ごう以を象しやう坊ぼう叙しよ遊ゆう記きよしき。治ち曆りやくのゆ

之月十の旨よも戸野ありて烟霧一付
つるともやこぼる人てしつらりりて
嘖嘖一付もこそ 元亨釈書

顕照抄送抄云鳥戸山之阿弥陀尊
そのとをくちを邊野といふ

詞苑集に國勸院法之のよ あひのひら

めしつとも多部ぶこそ 相も あま

身がくこのそはけ 法橋忠念 あま

物つと志け け あま

こそすれ 俊成 あま

よめり

物乃あり あま

げふ あま

し あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま



豊國

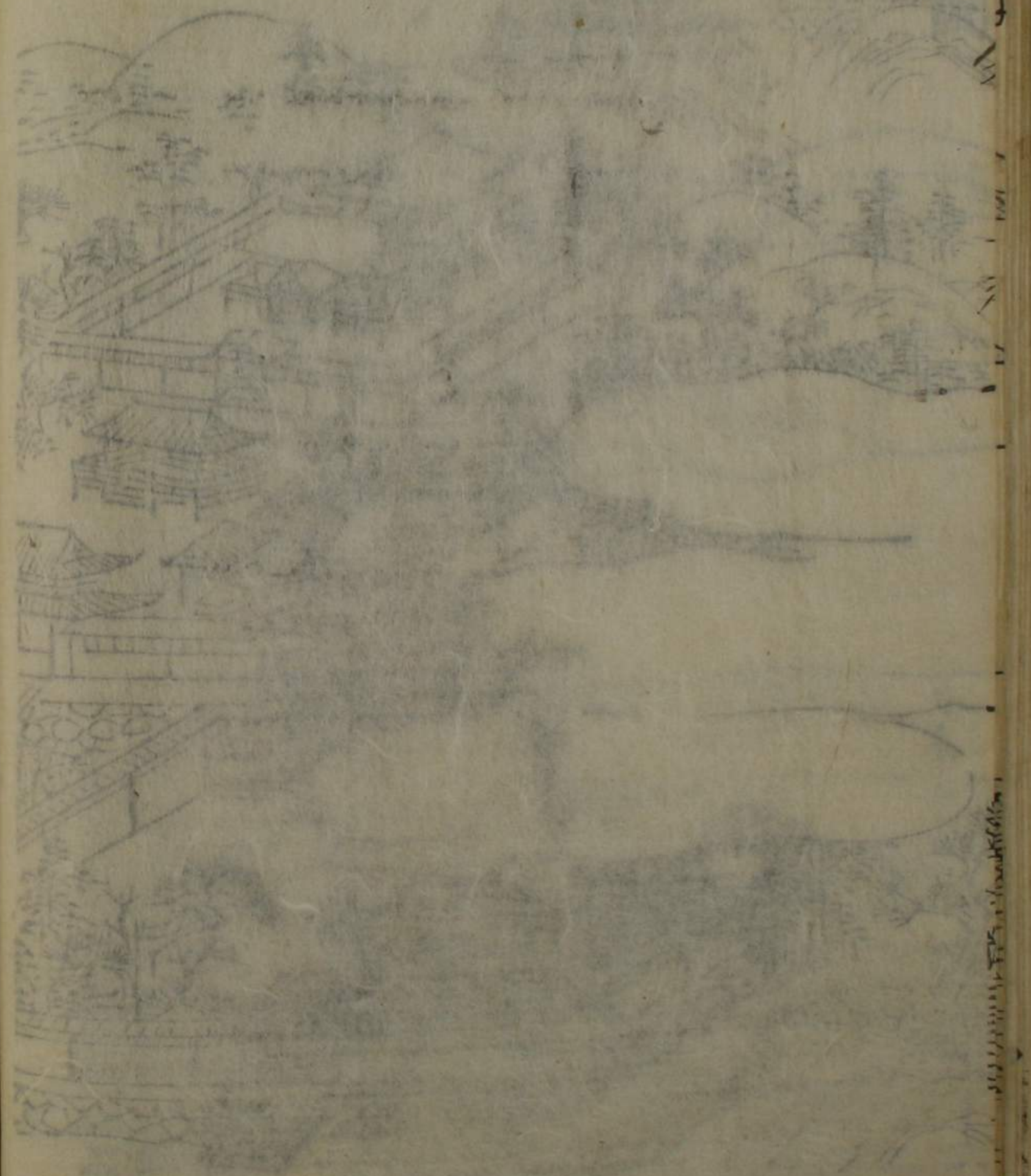
(一) けしき大仏乃東也。和秀吉曰白乃廣なる殿は西向にまじり

秀吉公はもと羽柴氏よりて天正壬午の夏明智日向宇光秀領より同し西乃と

七月小関白に依りて其の豊長は姫ふはしめ文禄壬辰からし諸兵を伴

一朝鮮を征し遼東の本をとりし高將はなごらりしりひりし四海を

堂子にまじりて探偵はかあり慶長成のいりし自よ豊長は死に



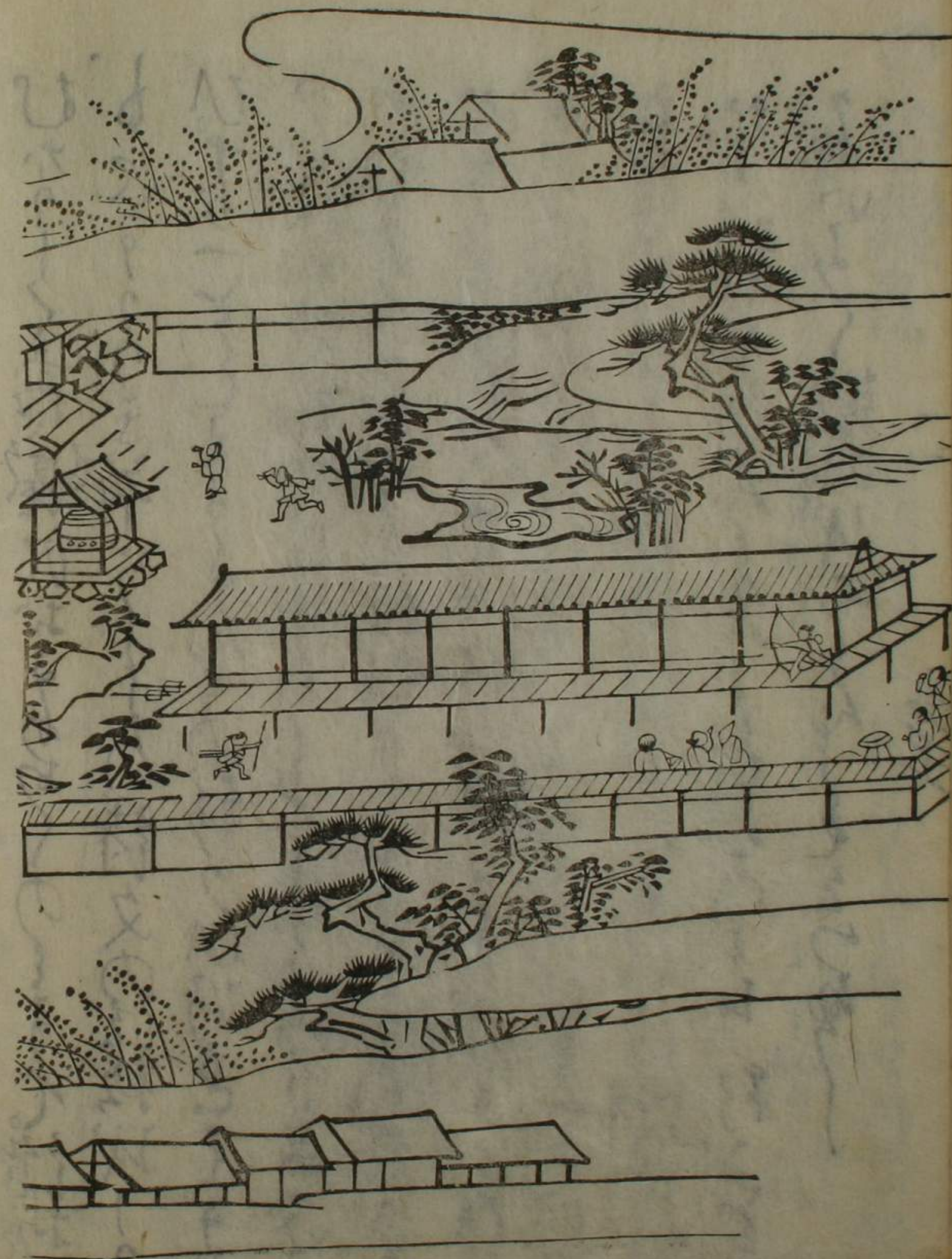
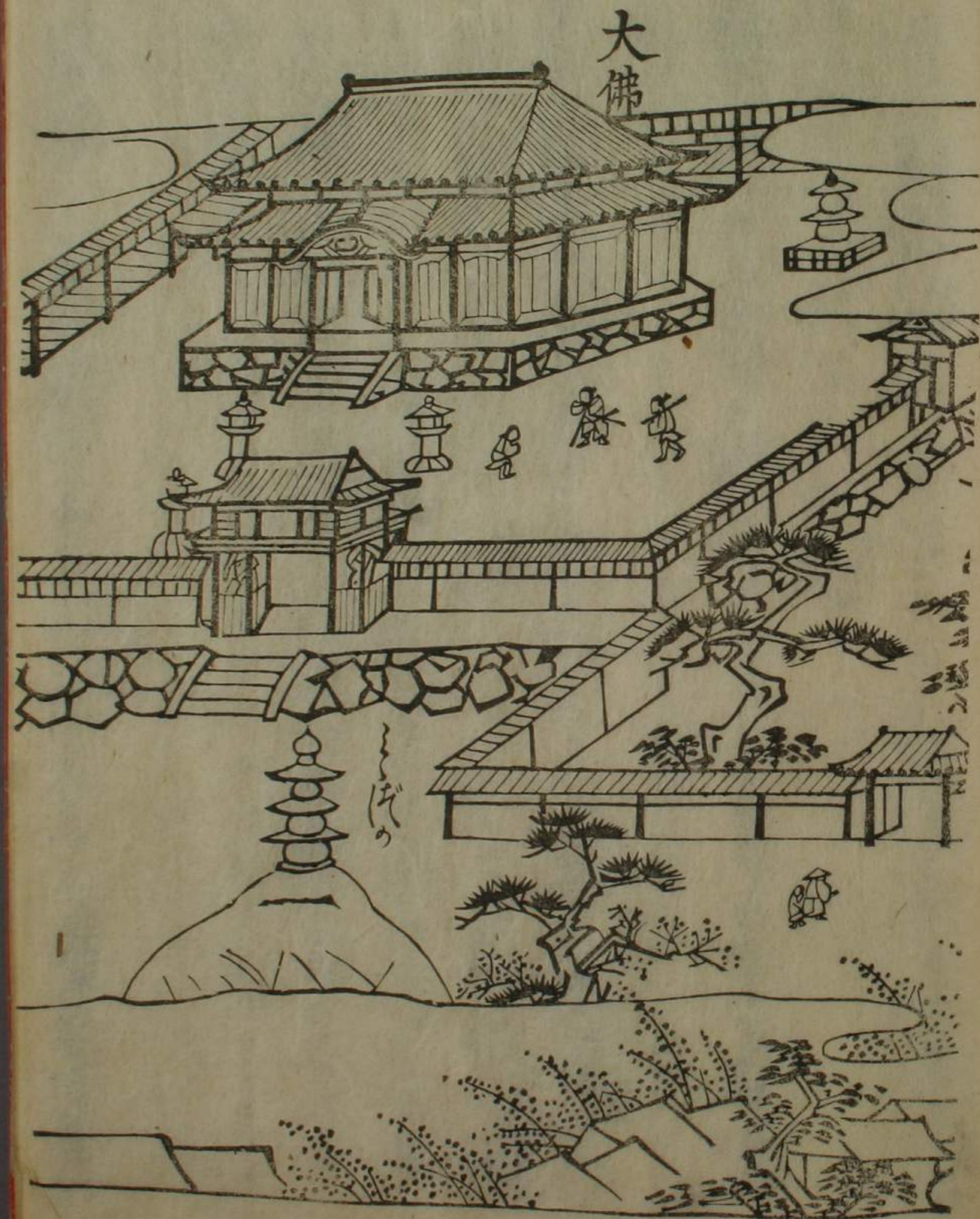
○智藏院

○智藏院 女法院門院乃くくくや。院前ハ
真言なり。客舎今いくくもはく。儼前ハ
はまら。勸学いくくふや。院まいなる院
学の深淵 なるくくくく

のくく及五月院の位名敷筆るく死とくく
あるく後学の力かたり。くく弘法のきくく
く文鏡秘府論ハ詩論一拾海をんく。成志
院まらくくくくの日試さくめ。占察くくく
けまらく待文章乃法極點作とくく。刺へ
吉音乃要路といくくく。めんとなりく。事く
難澁にがくめり。くくくより代々。宏学の位法

ひなくく書藏にふくめくのくく。後抄を
もくくくく。予くくく。待文の法極、くく
ひ。テグくくく。んどの秘つひ。海也。ま。ま
のひよ。秘府論の注抄あくく。修りつら。め。い
あ。ま。りのくく。れ。め。く。ド。て。学。者。が。ま
な。を。ろ。く。我。ん。ま。ら。り。ひ。げ。く。く。く。く。ひ。ゆ
ま。と。け。秘。府。論。よ。み。く。く。い。お。り。ま。ら。ん。ま。ら。ん。は
ら。ん。の。く。く。く。物。格。を。至。く。な。れ。ハ。弘。法。の。徳。を
か。ま。り。く。く。く。考。る。く。く。の。く。く。ら。ん。を。あ
め。い。く。く。曲。道。に。ま。ら。ん。ま。ら。ん。を。つ。め。





大佛殿

○は殿ハ西向也。仏之。執迦

殿乃内之十間。廻廊二所。石垣

あり

豊臣関白秀吉公建造。慶長

年八月廿二日に。海慶より。其後

十二月四日小焼失。けら。関白の長男

秀頼再野。弘永。庚戌乃多。出

少くあり

○取塚

大仏殿のち也。文禄元年。豊臣秀吉

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on aged, yellowed paper. The text is oriented vertically on the right page of the open book. The ink is dark and the handwriting is somewhat faded and difficult to decipher due to the age and cursive style. The text appears to be a continuous block of writing, possibly a letter or a record.

